

陸自特殊部隊の初代隊長はなぜ自衛官をやめ、熊野の山に里を開いたか



「熊野飛鳥むすびの里」代表
 元・陸上自衛隊特殊作戦群初代群長
荒谷 卓 Takashi ARAYA

1959年生まれ、秋田県出身。東京理科大学卒業後、陸上自衛隊に入隊。福岡19普通科連隊、調査学校、第一空挺団、弘前39普通勤務後、ドイツ連邦軍指揮大学留学。陸幕防衛部、防衛局防衛政策課戦略研究室勤務を経て、米国グリーンベレーに留学(2002~03年)。帰国後の04年、特殊作戦群初代群長となる。08年に退官し、翌年、明治神宮武道場「至誠館」館長に。18年「熊野飛鳥むすびの里」を創設

大学を出て陸上自衛隊に入る際は、あえて「背広組」でなく現場で働く「戦闘員」の道を選び、のちに特殊部隊(特殊作戦群)を創設して初代群長に就任。まさに、国防における「現場のスーパーエリート」だった。だが彼は、自分が「アメリカのための世界秩序」を維持するための渦に巻き込まれていることを自覚してしまっ……。ヒューマンドキュメント「BRIDGE」自分の外に橋を架ける」第1回は、愚直なまでに自らの信条と行動の一致を目指して生きる男の物語である。

取材文／山崎博史 写真提供／熊野飛鳥むすびの里

理系学生が特殊部隊の初代隊長となるまで

秋田県大館市で市役所職員のパと小学校教員の母のもとに生まれ、祖父から「世のため人のために生きろ」と教えられた荒谷卓は、大学を卒業した1982年、陸上自衛隊に入隊した。2004年には特殊作戦群を創設し、初代群長を務めたスーパーエリートだったが、08年、50歳を目前に早期退官。

そして一昨春秋、「共生」の旗を掲げて紀伊山中で「里」を開き、いち早く「新しい日常」へと踏み出した。

このインタビュは、「正義」への素朴な思いを愚直に生きる、ひとりの男の半生をたどるものである。

※ 荒谷は東京理科大学で人工衛星のリモートセンシング技術を学び、大学卒業を前に大手ゼネコンの内定を得ていた。しかし鹿島神流流術を学んでいた明治神宮武道場の恩師から、「お前の顔は軍人の顔だ。自衛隊に行け」と言われる。

防衛省入省のための国家公務員上級職試験と一般幹部候補生採用試験を受け、ともに合格。だが、防衛省勤務で背広組の「自



米国グリーンベレー留学時の荒谷氏(中央)

衛隊員」は国際法上「非戦闘員」扱いになると知ると、高級官僚の栄達の道捨てて「戦闘員」となる現場の「自衛官」の道を選んだ。そして福岡19普通科連隊、調査学校、第一空挺団とキャリアを重ねる。

※

——上官や教官らとたびたび衝突したそうですが。荒谷 自衛隊はアメリカの指導の下に、戦前の日本人の伝統的価値観を否定していましたが、僕は当時も今もその伝統的価値観に立っている。これは組織管理の観点からよろしくないわけです。そう気づいたのは入隊して数年後、三島由紀夫の憂国忌に制服を着て参加した時でした。いつのまにか調査隊(現・

情報保全隊)に写真を撮られ、上司から「思想的によりしくない」と指導されました。もうビツクリして、逆に「あなたたち、おかしくないか」ってやり返しました。

——そんな「危険人物」に、特殊作戦群の創設を任せられた理由はなんだったのでしょうか。荒谷 僕はやつぱいな考え方をしていたとはいえ、言動はオーブンで隠し事をしませんでしたし、部隊訓練には誰よりも情熱を持って取り組んでいました。組織内で孤立するわけではなく、尊敬する方も友人もたくさんいた。そこは組織から見ても、安心できる「危険人物」だったんじゃないですか?(笑)

※

荒谷は2002年、米陸軍特殊部隊「グリーンベレー」に留学。断トツ最年長の41歳だった。そこでは教育コースは若く、屈強な米兵さえ音上げる超ハードな訓練・試験で知られ、最難関の教程は総重量約80kgのバックパックを背負って決められた行程を進み、制限時間内にゴールを目指すものだ。地図にないイバラ地帯に突っ込み、手足を刺され続けたが、痛みも出血も構わずナイフで道を切り開いた。崖は獣のごとく駆け上がり、下りは岩のように転がり落ちて中間に合わず、最後は高さ5m近い崖から飛び降り、死に物狂いで間一髪ゴールイン。米兵の多くが不合格、外国人留学生も他の全員が不合格となるなか荒谷は合格した。

※

そして04年、特殊作戦群を習志野駐屯地(千葉県)で創設し、荒谷は初代群長となった。テロ・ゲリラ対応や特殊工作活動を任務とする、防衛大臣直属の最精鋭部隊である。

※

荒谷 冷戦が終わってアメリカの戦力が圧倒的となり、紛争が起きたとしても体力勝負の戦争にはまずありません。例えば戦車大國だったドイツは戦車をほぼ廃止し、テロ・ゲリラに対応

する警察的な軍隊が主流になっています。そうした警察的な軍事活動をリードするのが特殊部隊です。日本も早くその方向へ切り換えないと世界の趨勢から遅れるという危機感が私にはあり、陸上幕僚監部の長期防衛見積もり担当だったときに創設を主張しました。

——やはり特殊部隊の詳細は極秘なのですか? 荒谷 隊のポリシーは僕が作った時で300人程度。少数で国家の命運を担うオペレーションを遂行するには奇襲性がカギだから、情報の秘匿が必要になります。訓練内容は外交、語学、人道支援、医療、建築など一般の軍隊組織に比べてはるかに多岐に渡り、殺傷、破壊だけの軍隊ではありません。相手国における新しい社会づくりといった機能も持っています。

なぜ自衛官を早期退職したのか

しかしその4年後、荒谷は自衛隊を早期退官してしまっ。一体何があったのか。荒谷 アメリカ大統領のブッシュ・シニアが「これから新世界秩序を構築する」と宣言して以降、世界中で市場主義が幅を利かし、自由競争が価値基準とな



「むすびの里」は訪問客も広く受け入れ、これを「仲間入り」と呼ぶ。勉強会や講演会には「仲間」に加え地域の人々を無料招待。また、全国の武道愛好家や地域の老若男女が稽古する武道場も備える。詳細は公式サイト【<https://musubinosato.jp/>】で

りました。その結果、世界は市場で支配力を持つ個人資産家や企業・財団らが、並みの国家以上にパワフルになっています。大きな国際機関さえ、そんな方たちが主たるメンバーになっている。WHOの抛出金ランキングを見たら、米国に次ぐナンバー2がビル&リンダ・ゲイツ・ファンドだったりする。それがなぜ問題かと言うと、彼らは市場の勝者として国際ルールを自分たちで決めていくという意思と方向性を持っている。そうすると、世界で起きる出来事は国や国際機関という「公の理念」に沿うものとはまったく違ってくるわけです。

僕が確認したのは、アメリカの特殊部隊の活動は単純な軍事的オペレーションでなく、アメリカに好都合な政権の維持・存続や不都合な政府を転覆させる工作だったりすることです。市場の要求に応えるために政治経済的な謀略を仕掛けたり、要人の誘拐・暗殺をしたりと、リスクを意図的に創っていくわけです。特殊部隊の国際会議や交流の場に行くとき、日本では「陰謀論」とか「映画の見過ぎ」とか一笑されるようなことが常識的に語られています。市場の勝者たちが利益獲得のために国を動かして紛争を起こし、手先として軍隊を使う。日米関係のしがらみの中で当たり前のように、自衛

隊も巻き込まれていくことになる。これは僕には耐えがたいことでした。

※ 08年、荒谷は「自衛隊にこれ以上いてもなすべきことはもうない」と依願退職。その後、自衛隊に入るきっかけをくれた明治神宮武道場「至誠館」館長に就任する。国内に門人1000人を抱える一方、毎年数回は欧州・ロシアに出張し、各国の武道生徒たちを教えることになった。

※ 海外の人と武道交流をする日々、感じていたことは？ 荒谷 海外の方たちとは自衛官時代も国際会議や防衛交流などで交流していましたが、景色が全然違うんです。というのも政治や軍事では、日本はルール・メイクする積極的ポジションを取ろうとしませんから、他の国から相手にされないし、独自の考えを主張することがない。ところが武道交流では海外の方たちは日本にリスプレクトを抱き、強い関心を示すんです。

たとえば黒澤明の『七人の侍』を見て武士道に関心を持った人が結構います。あの侍たちは百姓のために報酬もなく命がけで戦う。侍という強者が、弱者のため、社会全般のために自分の命を捨てる。その素晴らしい倫理観を学びたいと言っています。でもそれは物語のなかの話では？

荒谷 彼らは東日本大震災のとき被災地の方々が助け合う姿にものすごく感動したとも言いました。大震災の5カ月後にフランスの国際武道講習会に行きました。主催は欧州・ロシアの道場の有志で、掲げられたテーマは「ORIGINS（本来の姿）」。グローバル資本主義が世界に格差を広げ、社会の分断と対立を深刻化させている事態に危機感を持ち、「人類はORIGINSに立ち戻るべきである。それは東日本大震災で日本人が見せた共助の精神と地域の強い絆である」と彼らは主張していました。

「国境を越えて武道家たちがグローバル資本主義への危機感をもっている」と。

荒谷 僕も自衛隊を辞めるとき、世界を破壊する市場主義に反発したわけですが、次代を創る社会思想、つまりポスト市場主義のビジョンまでは考えていませんでした。それを「日本の伝統文化の中に答えがある」と、海外の人たちから教えられたわけです。森羅万象を一体と見る

※ として一昨年初、荒谷は、世界遺産の景勝に囲まれた三重県熊野市飛鳥の山間地にある、青少年教育のために整備された中古物件を買取り、「むすびの里」を開所。約1万㎡の敷地に2階建て宿泊棟（和室大部屋35畳、和室小部屋12畳、洋室小部屋2部屋）と、和室離れ（14畳）。

大食堂（約100人用）と、会議・図書室、それに武道場などの施設が並ぶ。

妻・智子（60）も昨春、介護の仕事で退職して東京から移住し、宿泊客や懇親会の食事作りを担当している。至誠館の門人だった女性とヨガ教師の女性も移住して運営を手伝う。英語、ドイツ語、ロシア語、中国語でも発信しているホームページに登録された「仲間」は、NPO代表、医師、企業経営者、ファンドマネージャーなどの老若男女が現在200人余り。さらに勉強会や講習会などへの参加者や観光がてらの訪問客がたえない。

※

荒谷 日本の最大のリスクは、現実的には中国でも北朝鮮でもなく、われわれの暮らしを破壊するグローバル資本主義です。その自由競争原理は弱肉強食の戦いの思想です。たとえ戦争がなくても、人々が常に競争心に触まれ、争っているような状態は平和とは言えません。金融システム改革、郵政民営化、国際会計基準、商法改正、会社法改正……そんな自由競争に突き進む中央政治に「共生」の理念はありません。そのような政治に頼るのはやめ、われわれ自身がそれぞれの地域で「共生」の伝

統文化を生きる方がいいと思います。

先ほども言ったように、日本の伝統文化には世界からの共感がある。僕は「むすびの里」を拠点に伝統文化を世界に発信し、世界の庶民との「共生」の和を広げたい。それぞれの民族や地域の伝統文化を認め合い、人間らしい社会を取り戻したい。庶民生活の現場からグローバルズムを克服しようという運動です。今は常識外れの夢物語でも、時代が移れば常識そのものが変わります。

――熊野での暮らしは？、

荒谷 草を刈り、水を管理し、薪を割り、地域の方々と行事や神事で親しくさせていただく。里の暮らしは、朝から夜まで本当にやるべきことがいっぱいです。だけど、それを次から次に無心にやるのがいいんです。お金のための仕事ではなく、自分が生きるための仕事、人を生かすための仕事、

そんな人間本来の仕事に従事していれば、一瞬一瞬がとても幸せです。自然の中で暮らし、働き、生きることが、こんなに新鮮で楽しいということを知



農作業や神事・餅つきなど地元の人たちとの共同作業を大切に

――そんな暮らしをしながら今のパンデミックをどう見ますか。荒谷 僕のように特殊部隊に身を置き、世界各地で人為的に作られたリスクを見てきた者としては、今回のコロナ騒動は仕組まれたものではないかと疑わざるを得ません。特殊作戦の国際会議でも、テロ対策として「生物兵器のパンデミック」に関するテーマがいっぱいありました。軍隊を使う紛争はお金がかかりますが、生物兵器によるパンデミックはそうでもない。むしろ生物兵器も本当に恐ろしいものを使えばリスクが大きくなりすぎる。しかし今回のコロナ程度であれば、世界の経済社会に与えるインパクトだけを大きくできます。もちろん証拠は何もないし、本当のところは分かりませんが、

「すでに世界は『新しい日常』へと向かっています。それは危険だ」と。

荒谷 都会では、在宅でのデジタルコミュニケーションの生活になりつつあるようですが、そのようなネットコミュニティには皮膚感覚がなく、やがて血の通わない人間関係になってしまふ。四角い画面の中のデジタル情報だけに頼るといのは、人間を管理・支配しようと考える人たちに都合よい世界です。そんな「新たな日常」は、すごく悪い方向性だと見えています。

熊野に住んでいると、世の中がロックダウンされ、お金がか動かなくなっても、ほとんど関係ないんです（笑）。僕がいま痛感するのは、ここではコミュニティが生活全体の保険になっているということ。病氣しても、事故に遭っても、不幸があっても、おめでたいことがあっても、地域のみならずやってくれる。都会はそんな絆を失ってしまったから、マネーでサービスを買い取れないんです。

僕は先日、荒谷家の墓を秋田からこの地に移すことに決めました。もう人生の最後を決めたので、あとはそこに向かって努力を集中するだけです。人は現在の地点から未来をあれこれ心配しても、エネルギーを浪費す

神道にベースを持つ、日本古来の「共生」の文化です。

熊野で里から

コロナ時代をどう見るか

たどりついた思想はあまりに壮大だった。しかし、これまでも荒谷の信条は常に行動を伴ってきた。

大学時代は成田空港建設にもなう三里塚闘争で、「土地を奪われた農家を助けねば」と現地向かった。自衛隊に入るときもあえて「現場」を選んだ。退官後に福島第一原発事故が起きると、鼻血を流しながら被災者に生活物資を届けた。北朝鮮による日本人拉致事件では、元海上自衛隊特別警備隊の伊藤祐靖氏とともに、被害者救出に向けて支援活動を続けている（伊藤が今年刊行した『邦人奪還』はベストセラーになっており、荒谷をモデルにした人物も登場する）。

そして一昨年初、荒谷は、世界遺産の景勝に囲まれた三重県熊野市飛鳥の山間地にある、青少年教育のために整備された中古物件を買取り、「むすびの里」を開所。約1万㎡の敷地に2階建て宿泊棟（和室大部屋35畳、和室小部屋12畳、洋室小部屋2部屋）と、和室離れ（14畳）。



セロリ、ナスビ、キュウリ、ピーマン、キャベツ、ジャガイモ、タマネギと、牛糞効果で見事な出来栄

ただで答えは出ません。誰かが創る未来に依存していたのでは、自分の未来は真っ暗です。だったら主体的に、自分のエンドステート（人生の最後に何を成し遂げたいか）を決めてしまひ、そこに腹を据えて全力投球することこそが保険の利いた生き方になります。皆さん、将来のためマネーの保険に入ったり、貯金したりするけど、マネーの価値自体がいまや非常に危うい。そんな危ういものに依存するぐらいだったら、世の中が大きく変わってもオレはこれで行くんだという腹決めを、早くする方がいいと思います。